

NPO法人 高蔵寺ニュータウン再生市民会議発行 (☎080-4540-3553)

## 2月の「どんぐりsカフェ」から 魅力的な「子育て支援策」へ期待の声

今、各自治体の子育て世代の呼び込みに力を入れている中で、春日井市の子育て支援策はどうなっているのだろうか。そんな思いから、2月18日の「どんぐりsカフェ」は、「春日井市の子育て支援の現状について」と題して春日井市に出前講座をお願いした=写真。こども政策課の3名の職員から、平成27年3月に策定された「新かすがいっ子未来プラン」を中心として、「子育て支援」と「健全育成（子育て）」



に対する取り組みの現状説明の後、子どもの安全・安心の確保のための地域の活動紹介や児童虐待対策、ひとり親家庭の自立支援、こどもの貧困連鎖防止策、また、最近社会問題になっている課題など多岐にわたる事業説明があった。

意見交換の中では、“子はかすがい、子育ては春日井”というキャッチフレーズにふさわしい、他の自治体にはない地域の特性を活かした魅力的な子育て支援策の必要性、貧困家庭の子ども達の学習支援策など、今後への期待の声が寄せられた。

(藤城 栄一)

### どんぐりsから

「どんぐりs」の活動で自慢できるものと言えば、毎月恒例となっている「ふれあいだより」の発行と「どんぐりsカフェ」の開催といえようか。この2つの内容をどう充実させていくか、また、どう持続させていくのかが今後の「どんぐりs」の活動の大きな鍵になると思われる。

●「ふれあいだより」は、会員の方々への活動報告の役割と、「どんぐりs」の活動をより広く皆さんに知ってもらう手段として位置付けている。ただし、会員の皆さんにはメール・手渡しなどの方法でお届けしているが、それ以外の方々へは所定の場所に置いてあるだけというのが現状である。「どんぐりs」の活動を広く知ってもらい、支持者や会員を増やす手段として積極的に活用する方法を模索していきたい。

●「どんぐりsカフェ」は、地域の問題を皆で考える場であり、そのことを通じて絆が生まれることを期待している。広報宣伝不足をどう乗り越えるか、また、多くの人気が気軽に参加できるためのテーマ設定と雰囲気づくりに努めたい。

(藤城 栄一)

### 3月の「どんぐりsカフェ」

テーマ みんなで歌おう「うたごえSALON」

進行役： 山田博氏（うたごえsalon主宰）

アコーディオン： 石川義夫氏

日時： 3月17日（金）、13.30-16.00

会場： 東部ほっとステーション

（サンマルシェ南館1階）参加費：無料。

### 高齢者すまい&困りごと相談

●まずはお電話ください：

080-4540-3553（どんぐりs事務局）

面接相談会日時：3月12日（日）、26日（日）

（ともに13：30～16：00）

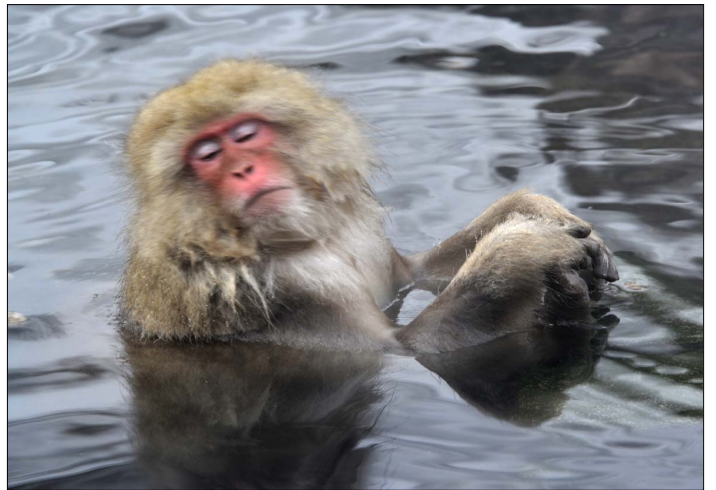
会場： 東部ほっとステーション

## 「桃源郷」構想に追い風 市や財団、支援の動き

「高森台県有地の活用を提案する市民の会」（愛称・市民の会）が進める「高蔵寺ニュータウンハナモモ桃源郷プロジェクト」の第一弾「第一回ハナモモ育樹祭」が2月4日、高齢者養護施設「どんぐりの森」で盛大に行われ、参加者はハナモモの若木に夢を託した。

春日井市では平成29年度から、5名以上の市民ボランティアが行う「苗木や花苗などの植栽」に上限10万円を限度として奨励金（助成金）を支援する制度を新設することになった。助成対象地は公共用地と一般に公開できる民有地も対象になり、市民の会の活動はまさにこの制度に

ぴったり。一方、市民の環境整備活動に積極的に支援しようという動きが出てきた。その一つに、「（公財）三菱UFJ環境財団」がある。昨年暮れ、市民の会が助成金申請したところ、平成29年度の「植樹活動支援」として「ハナモモ植栽苗木50本の寄贈」が採択された。これらの現象は環境緑化という息の長い活動が単に植栽という行為を越えた、地域再生のキーワードだということが認識され始めたことを物語っている。（寺島 靖夫）



いい湯だな！（長野県・地獄谷温泉） 森

### 旧藤山台東小で「大同窓会」

2月11日、旧藤山台東小施設で「大同窓会」があった。悪天候の中、体育館でのイベントや校舎の自由見学に予想以上に大勢の人が集っていた。体育館では、藤山台東小学校の卒業生や、元教職員、また地域の子供たちなどが大勢参加し、高蔵寺高校の吹奏楽をはじめとして、ダンスやドッチボールなどのミニ運動会、また外ではプールを使ったパフォーマンスが行われ、さらにはキッチンカーやテントの炊き出しなども用意されて大変楽しいイベントとなっていた。

### 3月の「大人のたまり場」

- まずはお電話ください  
：080-4540-3553（どんぐりs事務局）
- 日 時：3月8日（水）、13.30-16.00  
3月22日（水）、13.00-16.00
- 会 場：「いつだって いま」  
（高森台6丁目東高森台集会所そば）
- 参加費：200円

#### 私の朝・昼・晩

#### 信ずる者は「怖くない」？

昔の日本人は、今の人と比べると死ぬことがあまり怖くなかったように思う。民俗学者の柳田国男によると、古来、亡くなった人の霊魂は近在の山などに浮遊し、子や孫の行く末を見守っていた。盆には家に戻り家族と交流する。しばらくたった後、その家系に生まれ変わるか、先祖たちの霊魂に融合する、と信じられていた。死者の霊魂は十万億土の西方浄土に往生する、と説く仏教の教えは、心底では全く信じていなかった、というのだ。

学校教育の普及によって、霊魂は“迷信”として排除された。でも、死んだら、先に逝った人たちと再会でき、気がかりな子供や孫の行く末も見られるとなれば、死ぬことは、隣の世界に行くようにちょっと気軽なものになる。「科学的」に考えると、確かに霊魂の存在は実証できない。でも、存在しないとも証明できない。要するにわからないというのが正解だ。どちらとも言えなければ、都合のいい方を信じたほうがいい。「死ねば無に」というより、「死んだら親や亡き友に会える」と思う方が楽しい。死ぬのもまんざら悪いことじゃなくなる。「あの世」を信じることは、よりよく生きる道でもある。（明賀雄二）